

九頭竜川流域委員会ニュース No.29

このニュースレターは、「九頭竜川流域委員会」の開催状況や審議内容について地域住民の皆さんにお知らせするために、流域委員会が発行するものです。

編集・発行 九頭竜川流域委員会

第29回「九頭竜川流域委員会」が平成17年10月28日に福井県自治会館において開催されました。

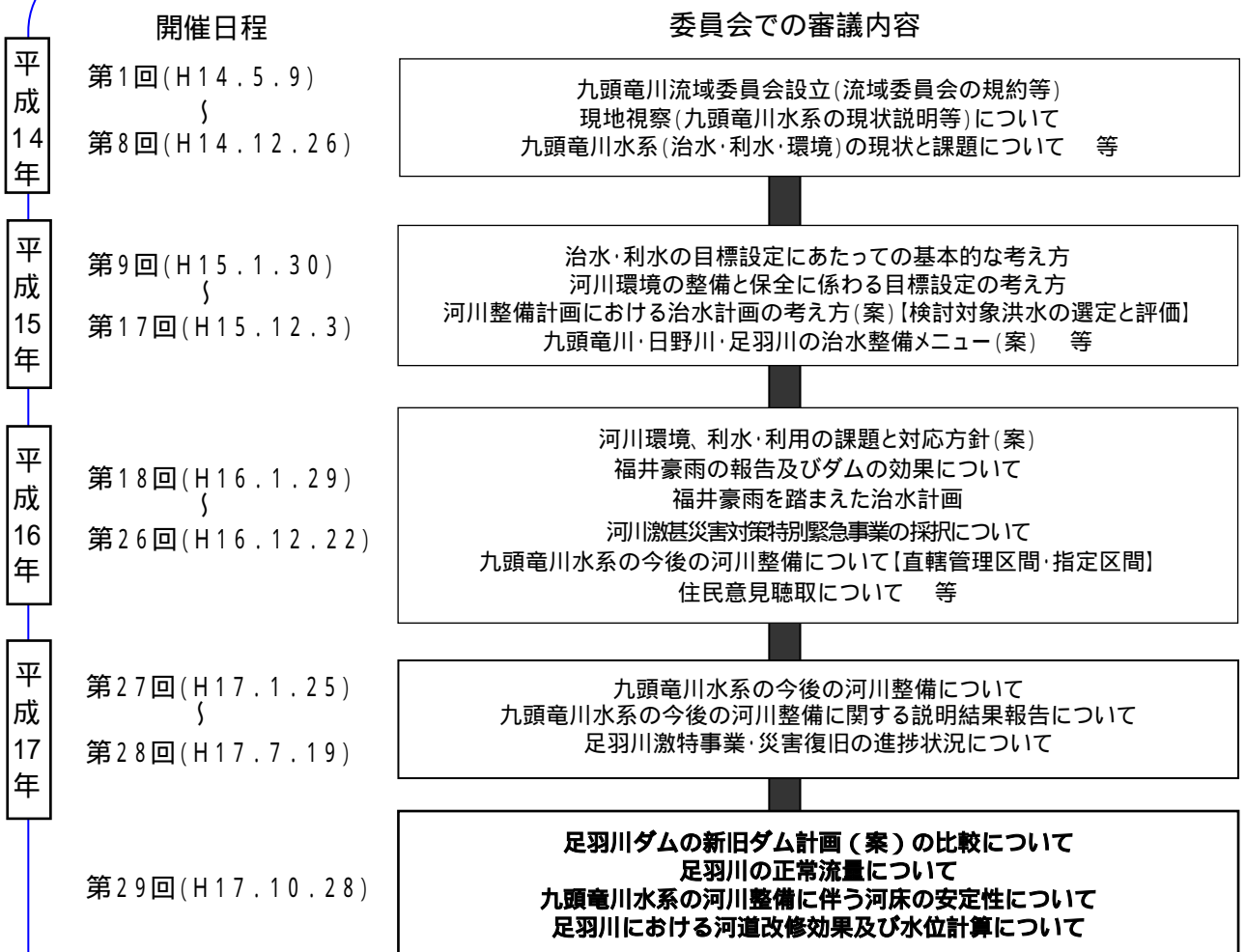


今号の主なニュース内容

第29回九頭竜川流域委員会の審議骨子

九頭竜川流域委員会からのお知らせ

これまでの九頭竜川流域委員会の経緯



第29回流域委員会の審議骨子

当日は18名の委員が参加し、河川管理者から「足羽川ダムの新旧ダム計画(案)の比較について」、「足羽川の正常流量について」及び「九頭竜川水系の河川整備に伴う河床の安定性について」等の説明がなされ、意見交換が行われました。

1. 足羽川ダムの新旧ダム計画(案)の比較について

「足羽川ダムの新旧ダム計画(案)の比較について」に関して説明した主な内容は、以下に示すとおりです。

- (1) 足羽川ダム事業の経緯
- (2) 新旧ダム計画(案)について
- (3) 洪水調節効果
- (4) 流木・土砂対策
- (5) 環境への影響・社会的影響
- (6) ダム計画(案)の比較 等

以上の説明を実施した後に、次のような質問や意見が出されました。

1. 足羽川ダムを池田サイト案と美山サイト案に建設した場合の具体的なコストは？
ダムの具体的なコストについては、まだ試算の段階であり、今後詳細な検討をした後に提示したい。
2. 美山サイト案の水没家屋数が以前の計画より減少したのはなぜか？
以前の計画は多目的ダムであり、今回は治水専用ダムで仮定して算出した。
3. 新旧ダム計画(案)の総合評価の表で、池田サイト案の方がコストが高くなっているのはなぜか？
池田サイト案は美山サイト案と比べると、ダム本体の規模がやや大きくなり、導水施設が必要となるため。
4. 治水については、池田サイト案と美山サイト案とも同等の効果があるのか？
両サイト案とも天神橋地点での洪水調節効果が同じように発揮できる。
5. 治水専用ダムを対象に話が進んでいるが、ダム計画の比較検討には、観光・景観についても考えていく必要があるのではないか？
不特定容量を確保するか否かについては、今後の議論を踏まえながら判断していきたい。
6. ダムサイトは、治水機能が同じレベルなら水没家屋数が少ない方がいい。
7. 平成14年7月に足羽川ダムの美山サイト案は白紙撤回したはずである。もし、今から改めて審議し始めるというのであれば、それは非常にナンセンスである。

第29回流域委員会の審議骨子

- 8. ダム事業のコスト評価をする場合は、建設コスト以外にも維持管理上のコストなどトータルコストを見据えて実施していくべき。
- 9. 足羽川ダムの今後の審議については、池田サイト案に絞って早く結論がでるようにお願いしたい。

新旧ダム計画(案)の総合評価

項目	池田サイト案	美山サイト案
洪水調節	基準地点流量に調節可能	
流木対策	流木止め工により、流木流入を抑制可能	
土砂対策	土砂対策工により、土砂流入を抑制可能	
環境への影響・堆砂	堆砂量小 湛水面積小	堆砂量大 湛水面積大
ダムの管理・操作	ダム及び分水堰のゲート操作が必要	ダムのゲート操作が必要
ダムの管理・巡視等	下流河川・貯水池内・堰	下流河川・貯水池内
社会的影響	約50戸	約150戸
コスト	>	

当初ダムの場合、約220戸の水没家屋が発生する。

ダム計画(案)の比較

	多目的		治水専用			
	代替案	当初のダム	工実対応ダム		整備計画対応ダム	
	池田サイト案	美山サイト案	池田サイト案	美山サイト案	池田サイト案	美山サイト案
ダム高(m)	130	80	96	59	76	49
湛水面積(km ²)	1.80	2.90	1.06	1.77	0.68	1.27
堆砂量(万m ³)	257	1200	約50	約150	約30	約110
社会的影響(戸)	約50	約220	約50	約150	約20	約110
コスト	>		>		<	

数値は検討中のものであり確定したものではありません。

2. 足羽川の正常流量について

「足羽川の正常流量について」に関して説明した主な内容は、以下に示すとおりです。

- (1) これまでの経緯と今後の検討内容
- (2) 足羽川の現状
- (3) 正常流量の方針
- (4) 正常流量確保の検討(案)

以上の説明を実施した後に、次のような質問や意見が出されました。

- 10. 瀬切れを起こすような川だからこそ、こういう生物がいると思う。もし、瀬切れを解消するのであれば、外来種に対する対策が必要となる。
- 11. 瀬切れが生物に与える影響を考えていくには、足羽川の瀬切れがいつ頃から発生したかという歴史を探ることが重要である。
- 12. 川の中の生き物を考える場合、そこに本来いるものがどういう生態であるかを知ることが一番大事である。
- 13. 瀬切れがなく、川に水が流れていることが地元の人たちにとって幸せか等を考えることも重要である。
- 14. 足羽川の貴重種と瀬切れの関係の図は、いつ頃のデータを基に作成したものか？昭和60年、平成3年、4年、8年、11年の5回の調査を基に作成した。

第29回流域委員会の審議骨子

15. 瀬切れを解消するために、水が流れる人工的な水路をつくったとしても、そこは外来種が侵入しやすい川となってしまう。
16. 瀬切れは、足羽川堰堤の下流で発生しており、取水量を調整する等の改善を試みて欲しい。
17. 正常流量を確保するか否かは、瀬切れの発生により、米の収穫量が減少するのか、または内水面漁業に影響するのか等を調査し、それらの結果から絞り込んで判断していくべき。
18. 瀬切れの発生は、灌漑取水も原因の一つと考えられるので、農業関係者も知恵を出し合って解消に努めて欲しい。
19. 瀬切れは自然の河川では起こりうる現象であり、それを解消するという事は、川本来の自然の営みを変えることになる。
20. 正常流量については、足羽川だけ深く議論するのではなく、九頭竜川、日野川、足羽川の3流域で、ある程度統一のとれた考え方にした方がいいのではないか。
21. これからの川づくりは、画一的な考え方によらず、それぞれの地域の個性・環境に合った川づくりをしていくべき。
22. 正常流量を確保する場合、正常流量確保のための検討(案)の4つの項目の中で、どこに重点を置くかが重要であり、ダムへの負担を極力減らすように努力するべき。
23. 魚類や外来種等の生物調査は、足羽川本川だけを対象とするのではなく、流域という視点から農業用水路等についても調査して欲しい。

正常流量確保のための検討(案)

・水利権者との調整

(方法)過去の濁水時での取水や番水の実態を調べ、現在の水利権の中で可能な限り下流河川へ放流できるかを検討

・湧水の利用

(方法)濁水時の地下水位を調べ、河床に水路を設けた場合の湧水利用の可能性を検討

・放棄田の利用

(方法)足羽川堰より上流に既存する放棄田、水路を利用して、濁水時に水の供給ができるかを検討

・ダム供給

(方法)計画中の足羽川ダムに足羽川の正常流量のための容量を確保する。



第29回流域委員会の審議状況

